

文化庁 平成29年度日本語教育大会 東京大会
パネルディスカッション
「これからの日本語教育における人材像
ー養成の現場と活躍の現場の両面から考える専門性ー」

大学における人材育成 ー現状と課題ー

学習院大学 金田 智子

学習院大学における日本語教師養成

1. 課程

- ①文学部日本語日本文学科 日本語教育系(主専攻、1987年設置):学科定員110名(内、3割程度。含 外国人)
- ②人文科学研究科日本語日本文学専攻(日本語・言語・日本語教育の専門分野・領域)

:定員 博士前期課程20名(内、3割程度)、後期課程3名

2. 修了要件(学部)

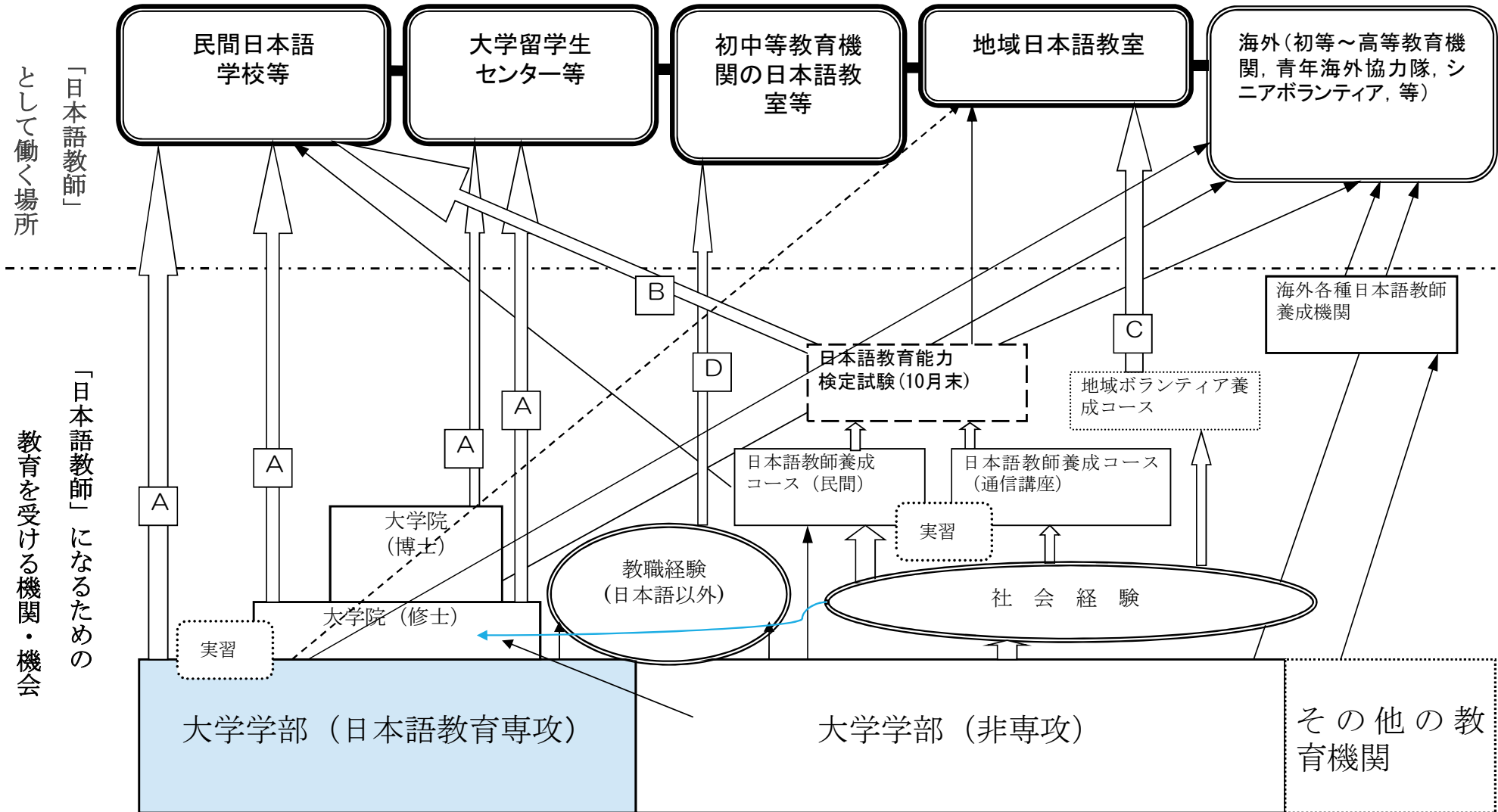
- ・必修科目79単位(内、日文科専門科目65単位。含 卒業論文)
- ・選択科目36単位(内、日文科専門科目16単位)
- ・自由科目16単位 計131単位
- ・卒業試験(日本語教育、日本語学、言語学、漢字)

→4年間の学びのプロセス →日本語教師になるプロセス(次頁)

どんな科目が必修？

- ・日本語学講義I ・基礎演習I
- ・日本文学講義I ・日本文法
- ・現代日本語研究I(日本語の音声)
- ・現代日本語研究IV(異文化コミュニケーションと日本語教育)
- ・対照言語学 ・日本語学概論
- ・日本語教育I(概論)
- ・日本語教育Ⅱ(日本語教育の内容と方法)
- ・日本語教育Ⅲ(日本語教育の実践)
- ・日本文学史概説 ・言語学講義
- ・日本語学演習(複数から選択) ・卒業論文

日本語教師になるまでのプロセス



育成しようとしている人物像

1. 日本語教師として教育活動に従事できる基礎的な知識・能力を有する者
2. 日本語教育における新たな課題に対し、適切に取り組むための知識・能力・資質を有する者
3. 日本語教育活動において、自ら問題点を発見し、改善のための方策を検討・実施できる者(☆)
4. 日本語教育に関する基礎的な知識・能力を有し、在住外国人・日本語学習者に対して適切に接することのできる者

「即戦力」となるか？

ーディプロマ・ポリシー(学位授与方針)による検討ー

○学科のディプロマ・ポリシー

日本語日本文学科は、必要な修業年限を満たし、所定の単位を修得した者に対して、実証的な方法に基づいて、日本の言語・文学・文化、世界の言語・文学・文化との比較、日本語教育などに関する自由な研究を実践して、一定の成果をあげているものと認め、学位を授与する。

＜参考＞ 本学 学士課程のディプロマ・ポリシー

学習院大学は、本学に学んだ学生が、学則に定められた所定の期間在学し、学部の教育研究上の目的に即した教育課程と各種の正課外活動を通じて、自ら課題を発見し、その解決に必要な方策を提案・遂行する力を十分に身につけた社会人となるべく、必要な知識や汎用的技能、態度・志向性を涵養し、卒業に必要な単位を修得したとき、学則及び学位規程の定めるところにより、学士の学位を授与します。

☆「大学の課程で日本語教育を専攻する」 ≠ 「経験豊かな日本語教師と同様の活躍をする」

○ 初任者だからこそ発揮できる資質・能力もあるはず

育成しようとする人物像に近づけるために(1)

—多様な実践の場の提供—

<学内>

1. SA(Student Assistant)活動
2. 学内日本語教室の実施(学習院大学日本語教室、わくわくとしま日本語教室)
3. 短期日本語研修(6~8月実施、3種、海外大学生が来日参加)への参画

<学外>

4. 区教育センターにおける外国人児童・生徒の学習サポート

<海外>

5. 海外日本語教育研修旅行
6. 海外日本語教育実習(インターン)派遣

育成しようとする人物像に近づけるために(2)

ー「現場」イメージ、キャリアイメージを持つ機会の提供ー

1. 日本語教育I(日本語教育概論)での日本語教育機関訪問・見学

2. 「ようこそ先輩」の実施: 日本語教育に関する仕事に携わっている「先輩」による特別講義

「先輩」の例: ・日本語教師(日本語学校、国内外の大学、海外初等・中等教育機関、NPO法人等)

・JF/JICA派遣帰国者

・出版社勤務(編集者)

・各種の公益法人勤務

☆ほとんどが、職場や職種、仕事内容等が変わっていった経験を持つ

＜学生の反応＞ 「そんな現場があるとは知らなかった」「思いはかなう」「いつかこうなれたらいいな」

「視野を広く持とう」「自分を振り返ると・・・」

＜学生からの問い＞ 「大学時代、どんなことを頑張っていたか」「転職のきっかけは何か」

これからの課題

ー学習院大学を例にー

-
1. 日本語教育分野に就業する学生の増加(学部:1割⇒2割)
 2. 学生の資質・能力の向上
そのために・・・、 ↓ ↓ ↓
 3. 「育成しようとしている人材像」に対する評価方法の検討(ポートフォリオ等)
 4. カリキュラム、履修規定の見直し
 - ・必修科目の内容及び単位数、授業方法の見直し
 5. 各科目の内容・方法の明示(見える化) <3 との関連>
 6. 「日本語教師」という職に対する正当なイメージ作り
- 

日本語教育人材を育成していくために

<前提>

人材育成＝長期的展望の下、計画的かつ継続的に行うべきもの

<問題点>

- ・日本語教育専攻なのに、日本語教育の業界に就業しない／できない現状
⇒就業したい／就業できる状況に

<今後>

- ・無償労働や不定期雇用を当然としない、「育てる」環境・枠組作り